

### 3-⑩ 指導方法・評価等の工夫・改善

#### 「外国語活動・外国語科」の授業力向上を目指して

新潟市立小須戸小学校 渋谷 徹

##### 1 研究の視点に関する実態

新潟市では、今年度より新学習指導要領の先行実施により、3, 4年生で35時間の外国語活動、5, 6年生で70時間の外国語科の授業が行われている。しかし、当校は外国語を専門とする担任は皆無であり、担任は自分の英語力及び授業力に自信をもてず、ALTに依存している状況であった。そこで、次項以下に示す取組により、教員の英語力及び授業力の向上に取り組んできている。

##### 2 改善のための具体的な方策と取組内容

###### (1) 新潟市カリキュラム・マネジメント事業の活用による授業力向上 (H29)

昨年度、上の市教委事業を受け、三つの取組を行った。一つ目は、先進校の授業視察である。昭和女子大学附属昭和小学校(11月)及び筑波大学附属小学校(2月)に計4名を派遣した。二つ目は、5, 6年担任による文科省の新教材 We Can!を使った外国語科の授業公開である。この授業の動画は、新潟市外国語研修会で紹介されると共にDVDで市内各校に配付された。三つ目は、敬和学園大学客員教授外山節子氏を招聘しての職員研修である。外国語活動・外国語科の授業を進めるために必要な英語力・授業力の向上をテーマに講義と演習を行った。

###### (2) 新潟市授業改善パイロット事業の活用による授業力向上 (H30)

今年度は、昨年度の取組を継続・拡充し、次の取組を行う予定である。

- ① 外山節子氏を招聘し、新教材 Let's Try!及び We Can!の活用法について学ぶ (8/29)
- ② We Can!を使った6年外国語科の授業公開 (10/22) 指導者 大岩樹生指導主事
- ③ Let's Try!を使った3年外国語活動の授業公開 (12/17) 指導者 大岩樹生指導主事
- ④ 先進校への職員派遣(筑波大附属小学校の予定)

###### (3) モデル授業の提示

3, 4年生担任から依頼を受け、校長が両学年の児童に Let's Try!1 Unit4 のモデル授業を行った。全職員に指導案を配付し、可能な職員に参観させた。

###### (4) 教材及び授業プランの共有

市教委事業の予算を使い、授業を進める上で有用な教材を購入した(絵本, 絵辞典, CD等)。また、各担任が授業で使用した教材や指導プランを全職員で共有できるよう整備した。

##### 3 取組の成果と残された課題

###### (1) 当事者意識の向上

市教委の事業を活用しながら外国語の授業力向上に向けた取組を推進してきたことにより、学級担任が、当事者意識をもって授業に臨めるようになってきた。また、自分で授業を進めていく自信も高まってきている。

###### (2) 今後の指導体制の不透明さ

国は今年度、小学校で外国語指導をするための専科教員を1000人増員した。新潟市では、各区に1名ずつ配置されている。文科省では2020年度までに4000人に増やす必要があるとしている。専科教員は、学級担任に代わって授業を行ったり授業準備やALTとの打合せを担当したりする。つまり、専科教員が充実すればするほど学級担任は外国語授業の当事者ではなくなるのである。今後の指導体制がこのような不透明な状況では、校長として、外国語の授業力向上に向けた研修を推進していくことの必要性に対し懐疑的にならざるを得ない。